米國岡士報知書之三

114
A 4420
3

帝國圖書館藏

余千八百六十七年ニテヤザン地名滞占中支那兵ヲ指揮得シセンテレー人名舊怨ヲ棄テ相共ニ信睦センヿヲ請ハン為メニトーキトーク人名ニ使節ヲ送レリ然レトモトーキトーク人名自ラ来ラス其息女二人ニ驕倨ノ書ヲ齎シテ来ラシム其書ニ云ク余支那帝ニ白ス汝ノ民余ニ對シ信ヲ破ルヿ甚シ是ヲ以テ余汝ノ民ヲ信スル能ハス孰レカ絶滅

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

スルニ非スンハ此爭ヲ止ムル能ハフト彼ノ息女ミストルヒケリンク人名守護ニテ此地ニ至リ曾テ剛毅アルヲ以テジエンダイ人名ニ屈膝ヲ嫌ヒ恰モ至賤ノ奴隷ニ對セシカ如クニ呈書ヲ授テ直チニ退ケリ翌日午前二字順風ナルヲ以テ余レ錨ヲ擧ケリホンコン地名ヲ經過シ昔日千六百六十七年獨逸人ヨリ奪ハルモサ地名ヲ擊取セシ支那ノ海賊コキンク地名ノ妻ノ墳墓ヲ見シホンコン地名ノ山谷ハホルモサ中至好ノ米産スルヲ以テ名聲赫々タリ然レモ惜イ哉其地ノ供給ニ充ル而已ニシテ餘澤アルニ非ラス浮説ニ隨ヘハ丘陵ノ村落ノ逼近ニタキヒアン地名人種ノ勇士千ヲ以テ算フト云ヘリ又ヤサン地名ノ民薪木ヲ以テ業トス此ヲ輸シ以テ丘陵ノ土人ト火藥玉織物火倡ニ易フ戈

輩丘陵ニ入ントパカリー地名ニ於テ一日ノ費スト雖ヒ支那人中途擧衆ノ妨碍ヲ蒙スヲ以テ果サス止ヲ得ス急卒北ニ向テ去レリパンキリヲ地名ハ内海ノ上端ニ在リ凡二千ノ人口アル都府也而シテ水崖ニ至ル迄港口ヲ連環シタル高キ丘陵アリテ能ク東風ヲ遮防スルヲ以テ時々繫纜スルニ便ナルノ地トハ余カ海濱ニ於テ見シ下賤且ツ

不快ノ民ハ多ク漁務ト商賈ヲ事トス此地ノ人土人ヨリ盡善ノ烟草ヲ買ヒテ以テ喫用ニ備フ又本國製ノ好布ヲ使用スト雖ヒ米鹿角數種ノ皮革薪又少量ノ麻ハ此地ヨリタイヨンフ地名ヘ輸出セリ」我輩猛風止ムヲ得スタンカン地名ヨリ両三里ノ地ニ上陸セリ其地ニハ南ホルモサ地名ニテ使用スル是ノアヘン及ヒ巨多ノ外國品密貿アリ而

ニテ翌朝七字羣固ニシテタカヲ池名ニ着セ
リ時正ニ三月ノ五日也
閣下ヘ報書中ノ後文ニタイワン地名ノ土人
其信ヲ失ハサルニ我カ思惟ノ外ニ出テ支
那人ニ至リ未タ立約ヲ全フセサルアリ實
ニ悲嘆ニ堪サルナリ今漂流人ノ一事ハ外
國公使并本國有司ノ准允ニヨリテ合從セ
シ時ニ奪リリアンゴー地名ノ一州ヲ整理シ

政度以ニ其國務ヲ理シ兵力以テ其國ヲ守
固スルノ體裁ヲ立ツ可キ旨ヲ支那政府ニ
舉薦センコト及ヒ彼惆悵スヘキ副水師提
督ベル人名及ヒ要路ニ在ル先人ノ前志ニ應
セシカ為メ許可アラハトソーポン地名ニ於
テ一ノ砦ヲ建ツ可キコト支那有司并ニ余カ
心慮ニ出タリ五月下旬ニ至リミストルウ
ルリアム人名ト云ヘル者ペヒ地名ヨリ出

所ノ令諭ニ従ハスンハアルベカラサル
ノ旨趣ヲ地方官員ニ余ヨリ懲懲センヿヲ
指示アルヲ以テ直チニ其旨趣ヲ懲懲ニ委
細應允スヘキノ徽書ヲ制台或ハ欽差ヨリ
受ルト雖ヒ遂ニ彼等余ヲ欺キタルヲ知
レリ余偶然トシテタイヲンフ地名ニ在ヲ以
テジエンタイ人名此事件ヲタイヲンフ地名ノ
有司ニ告達セズ又ハ八百六十七年センタ

イレー人名ト云フ人ソトソーポン地名ニ於テ
建立シタル暫且ノ砦モ廢絶スルニ至レル
ヲ見ル其砦ニアル二門ノ砲并ニ守衛ノ為
メニ遺サレシ兵卒モ既ニチヤザン地名ニ退
移セラレタリ而シテ曰ク此州ノ熟見尚ホ
為サスンハアルベカラス且ツ諸事ベトン
地名ニ委托セサルヲ得サルカ為メ也ト此ニ
ユリテ此事件偏ニ閣下ノ心勞ヲ願ノ

同後指示アランヿヲ企望ス

余ハ南フロサ地名祇役ノ輸税官ミストルマン人名及ヒミストルヒケリンク砦ヲ立ツリアンギー地名ヲシテ支那ノ管轄ナラシムルヿノ事件ニ異論アリシヿヲ陳説セスンハ余カ職掌ヲ失スルニ似タリ彼両人余ニ勸解スルニ今ニ至ツテ黙諾ナラサル土人ヲ全ク信ス可キノ義ヲ以テス然リト雖ヒ余カ思慮ニ反シト相異シリ當初ニハトーキトーク人名トゾーポン地名ニ砦ヲ創立スルノヿニツキ異論ヲ發スル能ハス其所以タルヤ余砦ノ創立セラル可キヲトーキトーク人名ニ吐露セシカハ彼レ砦ヲ設ク可キノ地ヲ示シタルヲ以テナリトーキトーク人名曾テ四時ヲ借與セシヲ以テリアンギー地名山谷ニ貢税ノ收ム可キヲ主張セン、疑ヲイ

ス是ヲ以テ農家ヲシテ其約束ヲ行ハシ
ム可キヲ云ヘリ余レ此州ノ整理ニ對シ此
一事如何ナル妨障ヲ為ス可ヲ知ラス雖
モ若シ妨障ヲナスアラハ支那ノ人自カラ
貢税ヲトーキトーノ地名ニ納ルカ否ラサレ
ハ其地ヨリ地税ヲ支那ニ収ムル能ハス是
ヲ以テトソーボン地名ニ砦ヲ設ルノ要務ナ
ル其證又明カナリ蓋シ支那或ハ外國人常
ニ砦ヲ守衛シ彼レ若シ信ヲ破ルアラハ
立トコロニ責罰スヘキノ勢ヲ維持セルヲ
土人ニ知ラシムルハ要務ナレハナリ
此度ノ事件ニツキ閣下余カ所置ヲ准允ア
ランヿヲ企望ス抑此嶋ノ南ハ此地方中ノ
大路ニシテ且ツ普ク天下ノ水夫支那ニ至
ラントスル必ラス猛風狂瀾ニ逢ヘキ至悪
地ナリト云

ホルモサ地名ノ南港ノ海岸及ヒ其近傍ノ石
岸ハ航海者ノ内海ニ入ラント東ニ向ノ時
ニ多クハ失船スルノ地ナリ而シテ其地タ
ルヤ風濤ヲ遁レンカ為メ揚陸スヘキノ海
濱ニシテ其危如何ヲ問ハス其地ニ至レハ
必ラス免カレン

第二

北ホルモサ地名及ヒ中央ホルモサ地名ノ

國産ノ概論

世界萬國ヲ尋ルニ北ホルモサ地名及ヒ中央
ホルモサ地名ヨリ一層貴重ノ品物ヲ輸出ス
ル多カラス元来ホルモサ地名ハ中央港口ノ
両三里下端ニ至ルニ迄テ急ニ狹窄ナリ是
ヲ以テ狂風両側ヨリ侵淫シ地方多クハ沙
地川原狹少ナル山谷ノ躰ヲナス而シテ微
少ノ砂糖皮草生皮少量ノ薪木ノ外北ホル

ミサ地名ニ産スル品物更ニ生スルナシ

石煤ノ論

北ホルモサ地名及ヒ中央ホルモサ地名ノ石煤山ハ未タ全ク開業ニ至ルニ在ラス又能ク探討セラレス今日發業セル石煤山ハ只ケーシン地名ノ港口ノ近傍ニ在リ其地ノ形狀タルヤ大洲ニ於ル他ノ港口ニ比スヒ尚ホ可ナルカ如シ

此事件ニツキフーロー地名ニ於ル支那ノ武具庫ノ外國教師ノ指示ニヨリテ歐州ヨリ支那ヘ特ニ寄送セラレタルミストルタホシト人名ト云ヘル機器ノ學ニ達セシ人十二月下澣ニケーラン地名ノ礦山ノ事ニツキ信スルニ堪タルノ上言ヲ為セリ余其草稿ヲ得タリ彼レケーラン地名セモ地名バンカ地名タ人名ノ間ニアル國及ニ凡ソ十四萬八千

二百六十アクル坪名ノ海ヲ見行セリ然ルニ
ホルモサ地名ノ國ニ於ルヤ元来草樹堅強且
ツ繁蔓セシト道路ノ殆ト無キカ如キトニ
依テ檢査頗ル困難且ツ時々ハ手ヲ束子枕
査スル能ハサル如キモアレリ是ニ於テミ
ストルタホント人名業已ニ露出セシ礦山ノ
條々而已ヲ査察スルノ外他事ナシ彼カ悔
見スルニ二ツノ砌アリ其内上ノ一ケ所ハ

厚サ三十七インツ四十分アリテ凝固シタ
ル燃土ヲ含メル石煤ヲ生シ他ノ一ケ処ハ
泥硫礦石ノ質多クシテ尋常ノ樵物ニ化生
セラレスンハ更ニ使用ニ供スル能ハスミ
ストルタホント人名ノ成算ニヨレハ此石煤
ハ至好ノ品物ニシテ其元價ハトン價毎ニ名
三百三十七トルラルノ費用ニテ成ルベシ
抑天下ノ人ホルモサ地名ノ石煤ヲ賞美セサ

ル所以ハ全ク悪キ方ノ砒ヨリ出タル産ニ依レリ故ニ鉄製若クハ青銅或ハ他ノ金族ヲ鎔解スル如キノ工ニ使用セル半燒炭ニ化生セラル可キ石煤曾テアラス然リト雖モサヲー地名ノ港ノ近傍ニハ猶ホ一層至好ノモノアラン其地ニハ地層モ明カニ其例品モ尚ホ至好ノ性質アリ今ニ至テ礦山ノ光景舊容ヲ変セス石煤ノ顕ハレシ所ニハ

池層ノ向キニ平地アリ而シテ巨多ノ石煤ヲ發堀ノ時ハ地ヲ支ヘンカ為メ六フートノ間ヲ設ケ方六フートノ柱ヲ残セリ斯ノ如キ方法ニテ空氣ノ欠乏スルカ水充溢スルカ又他ノ縁由ニヨリテ止ヲ得ス其業ヲ止メ他所ニ轉スルニ非ラサレハ其業ヲ停セス

其地ノ風土ニヨリテハ此發窟ノ方法ニ於

テ替ヘスシテ可ナルヿモアリ蓋シ石煤ノ
五分ノ一許減少スルト雖ヒ別ニ薪木ヲ供
スルニ於テ増加ヲ要セサルモ有リ然リト
雖ヒ器械ノ精ト不精トニ依テ其差別アリ
當時支那人ノ事情ヲ見ルニ一日八字間勤
勞シテ漸ク三フート立方ノ石煤ヲ得タリ
歐人ニ比スルヿハ大概三分ノ一ナリ然レ
ヒ若シ精良ノ器械ヲ用ハ勞ヲ費ヤス少フ

シテ歐人ニ比スヘキノ功ヲ成スヘシケー
ラン地名ニ於ルヤ地ヲ穿テ石煤ヲ出サン為
メ鶴嘴斧ヲ用ヘリ此具ハ穿ツヿハ鑿ニ代
ヒリ破壞スルヿハ槌ニ代ヒル尖ハ長サ十
インツ八十分幅七インツ八十分許槌ハ幅
同上ニシテ長サ二インツ三十四分柄ハ九
ツ長サ十五インツ六十分ナリ米國或ハ歐
州ヲ尋ルニ其山ノ狀態ニ從ヒ凹箇ヨリ七

箇ニ至ル迄ノ異タル器具ヲ用ユ錐槌破裂ノ丁ニ用ユル他ノ器具ハ此ノ外カニ有リ

ケーラン地名ニ於ルヤ石煤ヲ揚出スルニ大概二十二カルロン許モ納ル、可キ竹ノ籠ヲ用ヒ此籠ヲ一ノ板ノ上ニ置ク此板ハ両端ニ於テヤヽ曲彎シ而シテ地上ニ重量ノ品物ヲ引上ケンカ為メニハ其板ノ両端ニ結付ルニハ繩或ニ鎖ニ代テラタン椰子ノ類ヲ用ユ顧フニ斯ノ如キ運輸ノ方法ハ失費多クシテ且ツ遲緩也故ニ是ニ代ユルニ木欄杆ノ上ニ軽キ載車ヲ轉シテ其用ヲ辨セシメハ利益又多カラン但シ此欄杆ニ鉄ヲ用ユルトキハ其地ニ充満セシ水ノ酸氣ノ為漸壞シ終ニハ滅盡スルニ至ル故ニ木ヲ用ルヲ可トス其用ユル所ノ燈ハ油ノ充満セシ小杯ニシテ其中ニライスヘハー此ハ禾ノ膜ヨリ製

シタル紙ニシテ繪紙等ノ類ニヲ製造スルニ
用ヒ能ク支那ヨリ輸出セリ
用ヒタル素質ノ燈心ヲ沈メリ其燈心ハ圓
小ニ片切セラレ直徑一インツ六十分ノ一
許長サハ四インツ許ナリ若シモ持運フ可
キ燈ノ用イラル可キ時ニハ卷テ且ツ前以
テ油ニ浸シタル紙ヲ蠟燭ノ代リニ用ユ石
炭ヲ揚出スルニハ人手ヲ以テス後ニ至リ
テ其大小ニ隨テ等類ヲ分ツ若シモ石煤ノ
埃ヲケーテン地名ノ白灰師持去ラサルノ時
ニハ障碍ヲ避ンカ為メニ其埃ヲ燒ク
其贏輸ヲ見テ算計スル片ハ四箇ノ石煤山
ニ於テ各々ノ出費左ニ擧ル如シ

石煤山	度量	雇堀ノ費	平地中ノ運輸	汲干ノ費	器械燈ノ耗損ノ費	總計
ヒ	五十二ビコル	一ドルラル	六十八分	十七分	十八分	二ドルラル
ビ	同	五ドルラル	一ドルラル七十分	三十四分	七十五分	七ドルラル八十分
シ	同	七十五分	八十一分	同	十二分	一ドルラル二十八分
デ	同	三ドルラル五十分	二ドルラル六十七分	同	四十三分	六ドルラル六十分

ケーラン地石迄水路ニヨリテ運輸サルヘキ地ニ於ル雜費此ニ加增シ先ツ此ノ標ヲ曉明セント欲セハ文那ノ所謂ヒコール量名ハ百三十三ドルラル三十分ノ一ニ同シト云フヲ知ルヘシ

	度量ニヨリテ算計セル坑中ノ費	坑ヨリ水路運輸場迄運輸ノ費	總計
石燻山			
	坑費五十二ヒコル二付 二ドルヲル	石燻港迄運輸費百ヒコル二付 十ドルヲル	十二ドルヲル八十四分
	坑費百ヒコル二付 三ドルヲル八十四分		
エ	坑費一トン二付 六十四セント	石燻港迄運輸費一トン二付 二ドルヲル三十分	二ドルヲル九十四分
	坑費二百六十ヒコル二付 七ドルヲル八十分	石燻港迄運輸費百ヒコル二付 七ドルヲル四十分	十ドルヲル四十分
ビ	坑費百ヒコル二付 三ドルヲル		
	坑費一トン二付 五十セント	石燻港迄運輸費一ヒコル二付 一ドルヲル	五十二分
	坑費三十九ヒコル二付 一ドルヲル七十八分		
	坑費百ヒコル二付 四ドルヲル五十六分	タヌ川迄運輸費一トン二付 一ドルヲル二十三分	五ドルヲル五十六分
シ	坑費一トン二付 七十六セント	タヌ川迄運輸費一トン二付 十六セント	九十二分
	坑費百六十八ヒコル二付 六ドルヲル六十分	溝迄運輸費百ヒコル二付 一ドルヲル	四ドルヲル九十二分
デ	坑費百ヒコル二付 三ドルヲル九十六分		
	坑費一トン二付 六十五セント	溝迄運輸費一トン二付 十二セント	八十一分

此ホルヒサ地名ニ於ル石燻ヲ産スルノ失費ハ大概平地中ノ運輸ト坑ヨリ水路ノ地ニ至ル迄ノ運輸トヨリシテ起レル前標ヲ見ハ知リ安カランミストルタホント人名ノ注意ニ若シ支那ノ目今ノ雪車ヲ停メ西洋人運送スル方法ヲ用ヒハ其費百ヒコル量名毎ニ八十二ドルラル價名シクハ八十三ドル又ル價名ニ減少スルナラン則チ其坑ニ於

ルヤトン（量名）毎ニ三十四セント（價名）若クハ五十セント（價名）許ニ減スルナラン千八百六十八年ニケーラン（地名）周回ノ石煤山ニ於テハ生産三百六十二万千八百十二トン（量名）ニ過キス而シテ凡ソ四分ノ一ハ其地ノ用ニ供スミストルタホント（人名）ノ説ニ此度量ヲ以テスルトキハ此石煤山ヲ盡サントスルニ幾百年ナルヲ知ラスト云ヘリ

余カ思フニケーラン（地名）ノ近傍ニ火山ノ現セルハ水平ノ下ニ在ル石煤山ノ修業ニハ大ニ防障ヲナサン今日ノ事情ニ依レハ石煤ノ地層ハ其處ヲ替ヘサルカ如シ然レトモ近時地震アル毎ニ其處ヲ替ヘリ斯ノ如キ割目ヲ傳フテ水ハ高キ山列ヨリケーラン（地名）南ニ至ル迄相通シ石煤ノ在ル丘陵ヲ浸タセリ是ヲ以テ千々スルノ費モ夥敷ニ

シテ且ツ僅モ地震動スル片ハ地中ノ工業其順次ヲ失スルヲ以テ弥其危キニ至レリ然リト雖ドモケーラン（地名）ノ急流ニ於テ水平ヨリ高キ石煤山ニ後利ヲ見テ其賊ヲ散スルモノ敢テ止マス蓋シ其地ノ廣濶ナル丁世人ノ企望ヲ達スルニ餘リアリ支那人ノ中ニ勞業交通商家ノ日々ニ相進歩スルヲ以テ礦山ノ事ニ從事スルヲ大ニ相賊ムノ議論沸騰スルカ為メニ隨テ起レル妨碍ノ甚キヲ説ト雖ドモ其言實ヲ過テ過論ナル丁疑ナシ盍シ支那ニ於ルヤ假令人民其事ニ蠱惑セシキト雖ドモ一身ノ利害得失ニヨリテ其事ノ是非ヲ決スルノ弊多キ故ナリ然レドモ有司鴻儒縉紳ノ輩ハ大ニ之レニ反シ机上燈下ノ論ヲ以テ礦事ヲ拒テ曰ク凡礦業ハ農業ヲ妨ケシメ且ツ民心ヲシテ賊利

ニ走ラシムルノ基ナリ人苟モ貶利ニ恥ル
ヤハ必本然ノ事業ヲ廢メ動モスレハ窮窘
悵然タルノ躰ニ至リ隨テ其法典ヲ守ルナ
ク又畏ルヽナク終ニハ明訓正經ノ道ニ乖
戾スルニ至ラシト斯ノ如キ僻言大ニ曼延
シ岡士等ノ能ク制御シ得ヘキ呼ニ非ラス
宜シク各阿ヨリ徐々説諭ヲ加ヘ其弊害ヲ
一掃セシハ成効スヘキノ策茲ニ無シ

石炭ノ論

此産物ハハンシ此地ハ土人ノ領分ニ於ケルソーランノ南東ニ當リ凡二千里地也及ヒ山列ストン中ヨリ石炭ノ在現スルニ於テ岡士ノ行人ミストルナヨンドシト人名ニ依テ發見セラレタリ此油ハ丘陵ノ麓ニ於ル割目ヨリ流出ス土人是ヲ直經六フート尺名程アル樟脳木ノ幹ニ鑿リタル桶ノ中ニ是レ

ヲ納ル此地ノ人民ハ是ノ品ヲ燈具ニ用ユル而已ナラス疝痛又損處ノ治療ニ用ユ余此例品シニーヨルク地名ノ博物院ニ送レリ近来支那政府ニテ厳令ヲ下シ石油ノ流出スル地ヲ穿チ其品ヲ運輸スルヲ禁セルヲ以テ目今此品外國ニ輸出セス

硫磺 諭

硫磺ノ産ト其運輸ノ〻ハ條約ニ依テ固ク禁制至レリト雖ヒ此品ハ此地ノ産物中緊要ノ物ニシテ此報書中告示セサルヲ得ス依テ之レヲ擧ク

海路ニヨリテ殷シ遥ニタムシニ地名ヲ指シ西方ニ向テ航シ二字間程馳驅シ後テ輿地ニ於テハ加重ノ岩礁ト記セシ小ナル岬ニ達セリケーラン地名ニ在現セルサントストン石ハ此海濱ヲ傳フテ再ヒ見ハルヽト雖

ケーラン地名ニ限レル一派ノ風ハ多少缺失セル終ニ加重ノ岩礁ニ至ルニ及テ參差タル角頭ニテ有ラユル躰裁ヲ備ヱタリ是レニヨリテ考フレハ其近邊ニ在ル隘キ平原ニ屹起セル熒臺ヲ貫キテ破裂スルト同時ニ必ラス烈シキ崩壞ノ起ルヘキ前兆自カラ相備ハヽリ加重ノ石礁ニ對セシ山列ニ登陸セヽ爽其高サ千四百五十フート在ル

キンパート地名ノ火山及ヒヤヽ其西方ニ當リテ其高サハ二千二百七十五フート尺名ノタユーカン地名ノ火山ヲ望見シ又ホルモサ地名ニ於ルヤ概シテタムシヽイシヽト稱シテ水平ヨリ四百五十フート尺名モ高キ火山ヲタユーカン地名ノ南ニ當テ見ヱタリ總テ此等ノ火山ハ概シテ硫磺ヲ生セリ斯ノ如キモノハサンフランシスコ地名ノ北ニ當ルモ

ントヘルナ山名ニ近キプラートリヲル川名ノ
沸騰泉ニ秋毫モ相異ルヿ無キカ如シ獨其
相異ナル所以ハカリホルニヤ地名ノ沸騰泉
ハ青石ヲ通シテ發出シ而シテホルモサ地名
ノ沸騰泉ハ地層ニ入ル其地層ハケーニン
地名ノ炭素ヲ含メルサントストン石名此彼相
藍ヒ而シテ緊ス處其底下ニハ礦物ノ氣
ヲ含ミ白灰ノ石之レ有リ此等ノ火山

ノ質半ハ藍色ヲ帶タル硫化錢ノ小
サキ水晶狶元ヲ且ツ一時眼ヲ曝ス時ハ恰
モ數片ノ金ナルカ如ク相ヒ透明ナル黑キ
粘土ヲ以テ粘ス半ハ噴火口若クハ山河ノ
嶺ノ側面ニ生セル熱泉及ヒ寒泉等ニ溶解
シテ在ル白赤色ノ地質ヲ以テ一緒ニ相粘
シタルラハ石名ノ大片ヨリシテ成レリタ
ーカン地名ニ於ルヤ灌木竹及ヒ衆類ノ木ハ

丘陵ノ側面ニ繁茂セリ余沸騰泉ノ最初ニ
相頭ハレシ地ニ攀チ登リ此顕象ヲ視察セ
リ余カ前面ニハ小溪相通シテ下流シ然レ
ドモ丘陵ノ側面相妨ルヲ以テ目視スルヲ得
ス且ツ至重ノ沸騰泉モ見ル能ハス余カ近
側ニ在テ硫磺ノ生スル一所在リ試ニ杖ヲ
衝入レテ其僅ヲ露見シテ考察スルニ此温
泉ノ水甚ダ熱ニシテ且ツ酸氣アリ若シ向

後ニ嶋ノ邪ヨリ他人ノ手ニ入ルアラハ所
謂彼ノ硫酸ハ北ホルモサ西ホルモサ地名ノ
糖煉者ニ莫大ノ高價ヲナサン元来北及ヒ
西ホルモサ地名ハ砂糖ノ生産既ニ大ニシテ
且ツ歳々相ヒ増加セリ余困難シテ酸氣ノ
含メル流川ノ地ヲ歩行シ漸ク二三ヤルト
尺名経過シテ下ケ高脹セル沸騰泉ノ中心ニ
至レリ此地ニ於ルヤ硫磺ノ烟我進ム毎ニ

鼻中ニ入リ又多々ノ窖ヨリ發出セシ水ハ我カ目
鏡ニ聚収シ時將ニ我ヲシテ首ナラシムルカ如シ此突
出セル水ハ線ノ如ク連綿トシテ發出スルニ非ラス必
ラス間有テ發スル而シテ恰モ蒸氣器械ノ管ヨリ吐氣
スルカ如クニ大ニ聲響アリ余硫磺ノ烟中呼吸スル
大ニ困厄セリ但シ此硫磺ノ為メニ噴火口ノ
邊凡リ五十ヤレト尺名ノ地ニハ草對曾テ相
生セス噴火口ノ地ニ依リテハ其窖ミ泥水
充ツ[illegible]ル瓦斯蒸氣ノ一緒ニ發出スルヲ
以テ恰モ熱水ノ滿盛セシ桶巨多アルカ如シ
余此場所ノ十五インツ上ニ手ヲ揚ケシカ
ハ其蒸氣ノ為メニ火傷セリ余カ周リ聲響
恐シク且ツ恰カモ在下ニ大ナル工房アリ
テ修業ヲナスカ如クニ常ニ其聲響相絶ル
ナシ余薄幸ニシテ時ニ猛風狂雨ノ来レイ
ヲ以テ探討ヲ遂ル能ハス察スルニ此風雨

ハ山ノ二百フート尺名若クハ三百フート尺名
ノ下タニ於テ山頂ヲ包括シタルヲ以テ今
電光劇雨ノ間タニ狹マレリ是ニ於テ余脚
下ニ劇雨アリ余頭上ニ閃電アリ恰カモ別
界ニ在カ如ク且ツ一身ノ安當ニ關スルモ
料ラレサレハ急卒還回セリ
タユーカン地名ノ礦山ハキンパロー地名ノ躰
裁ニ倣ヒ初ハ一層大ニ其修業ヲ振起スタ

ム地名ノ礦山モ其躰裁ニ倣フト雖モ其
業漸小ナリトス
ホルモサ地名ニ於ケルヤ硫磺製造ノ門ハ禁
止ノ門ニ至レリト雖モタユーカン地名ニ於
ケル支那ノ礦匠等一小村ヲ建置セリ電ハ
窮極ノ舊法ニ基キ製作セラレ近山ノ干草
ヲ以テ蓋ヒタル小舍ノ中ニ設ケリ此草ハ
硫磺ヲ製スル時ニ薪トシテ用ヒラレ此電

ハ裏ニハ粘土ヲ用タル鋏ノ器物ト器物ヲ
居エヘキ瓦製ノ隘キ火爐ヨリ成ル礦ハ成
ルヘキタケ泥質ヲ脱スルカ如クニ洗清セラ
レ然ルトキ此レヲ鑊ニ納ル此ニ於テ徐々ニ
溶解ス總テ泥質ノ去ラルヽ迚ハ間斷ナリ
其ヲ竦動ス然ルトキニ其ヲ短狀ナル圓錐形
ノ木鎔ニ灌キ而シテ致冷セシム若シモ凝
固ヲシ時ハ鎔ノ底ヲ扣ク然ルトキハ其ノ大

ナル口穴ヨリ出ツ硫礦ノ一塊ハ其量凡ソ
四十五ポント量名程ナリ請負人ハキンハロ
ー地名ノ小村ヨリ硫礦ヲ密買シ若掠奪等ノ
害ヲ受ルトモ一身ニ其損ヲ負フノ約ニテ
至當ノ直價ヲ以テ艚船ニ積入レリ余其直
價ノ何如ナルヤヲ査明セス余タユーカン
地名ヲ視察スルニ其地ニハ製シタル硫礦ノ
五万ホント量名以上モ之レ有リホルモサ地名

ノ熒臺ニ於テ熒見セラレタル硫磺タルヤ
假令ハ氤氳ト相ヒ觸ルヽ時ニ元来化學上
ノ量規ニテ硫磺質アル水素瓦斯ヲ含ミタル
沸騰泉ヨリ蒸氣ノ解體スルニ依レリ金族
ハ數百年間積累シテ尚ホ今ニ至テモ續キ
テ積累セシ地ノ割目ヨリ上昇ス斯ノ如ニ
シテ生シタル結冰セル硫磺ノ總量ハ世人
注視ノ如クニ相ヒ存セス又別ニ蒸氣ノ發

出ツル割目ノ上ニ器物ヲ置クトキハ今日世
ニ硫磺粉ト稱シテ賣買アル純粹且ツ貴價
ナル結冰ノ品巨多ノ失費無フシテ得ラルヽ
可シ然リト雖トモ熟驗ノ説ニヨルトキハ是
レ全ク裨益無キノ徵判然タリ今ヲ去ルヿ
數年前ガテロープ地名ノ蒸發氣ヲ得ント佛
國政府ノ諭動ニヨリテ一社ヲ設ケ大ニ戮
ヲ散スト雖其効驗ナク大ニ落膽セルアリ

此地ニ於テハ開業セラレシ三十八箇ノ沸騰泉中ヨリ一ケ年収ル所ノ硫磺只五十トン量名ニ過キス

タユーカン地名ノ頂上ニ於テ余水平ニ在ル空色ノ粘土ヲ發見セリチユイテンカ地名ノ近傍ニ於ルヤミストルトツト人名ガケーラン地名急流ノ岸ヨリ支那海ニ今日現生セルカロキトツタクナキカス地名ノ石蟹ヲ穿出セリタムシン地名ノ南ニ當レル郡ノ粘土ノ丘山海岸ヨリ凡ソ三十四里計離ニ於ルヤ及ヒタカシ地名ノアプ地名ノ丘陵ニ於テハ生キタル如キ殼ヲ聚メラレタリ總テ此等ノ發見ヲ察スルトキハホルモサ地名ノ熒臺ハ近時顕象セルノ證又確然タリ

樟腦ノ論

中央ホルモサ地名ノ民ハ樟腦ヲ製スルニ多

ク時日ヲ送レリ而シテ其ノ手續キタルヤ
至テ簡便ナリ日本人ノ所為トハ大ニ異ナ
リ其木ヲ煮ス厚サハ凡ソ一インツ四分ノ
一長サハ三インツ（尺名）ニ之レヲ切片シ而シ
テ其片レヲ蒸發氣ノ入ラル可キ陶器ニ納
レ置リ然ル片ハ蒸氣ハ此ノ水中ニ含メル
樹脂ノ質ト合シ此木ヲ浸潤シ而シテ濃氣
器ニ送ル此時ニ樟腦ハ冷氣ト相觸ルヽニ
從テ塊リ結晶ノ躰ニテ其濃氣器ニ落ル第
一圖ハ樟腦火炉ノ分析セル一面ヲ示ス

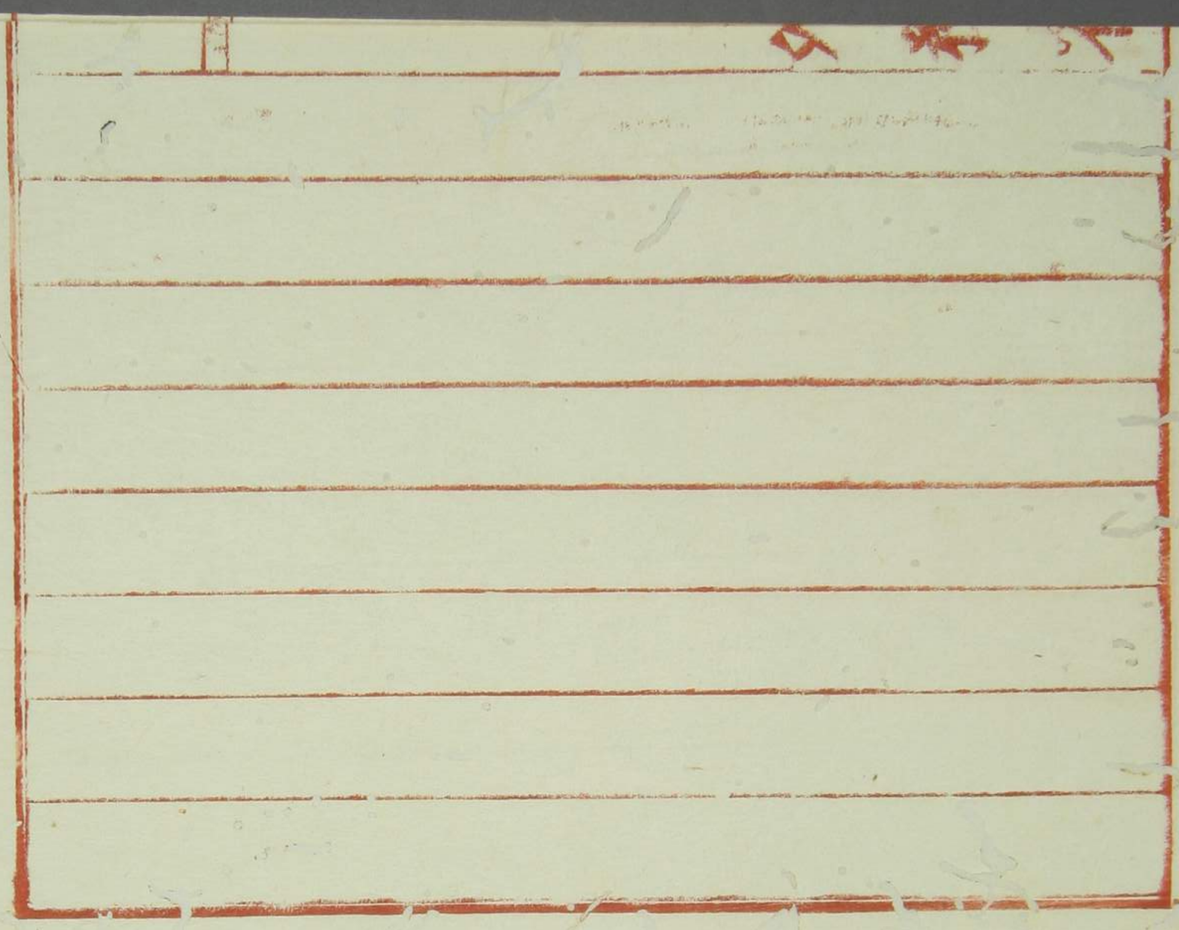
第一圖畧之

Cハ濃氣器ノ記号トスPハ樟腦片ノ入ラ
ル可キ圓筒形ノ陶器ノ記号トスHノ處ニ
テPノ陶器トCノ濃氣器トノ結合十分シ
且ツ其結合ノ処ハ大ニ氣密ニセシム先ツ
麻ヲ用ヒ其上ニ其周リニラタン（木名）ノ片ヲ

以テHト云フ濃氣器ヲ推シ後チ又ラタン木名ト其麻ノ上ニ粘土ヲ置リHハPト云フ圓筒ノ林ニシテCトCトニ於テ結合シ且ツ前以テ水ヲ置カレタルVニ於テ生セシ蒸氣ヲ通セン為メ作ラレタル四ノ小穴ヲ以テ揉通サレタルCCト云フ小板ヨリ成ルGハ火爐ノ記号トシ火ハ長サ十インツ尺名薪ヨリ生ス

第二圖畧之

第二圖ハ真景ニテ抑樟脳ノ生セラルヘキ竈ノ光景ナリ林ハ千瓦ヨリ成ルCPQハ三インツ尺名程ノ厚板ヨリ製シ温素ノ感動ノ為メニ此板ヲ展開セシメサルカ為メニBト云フ記号ノ木轄ヲ用ヒ最モ温素ノ猛烈ナルヲ要セス此竈ノ上ニ細キ林ノ片々ヲ以テ一緒ニ固結セラレシ竹ノ蓋ヒヲ

置ク其蓋ヒニハ窓アラス火炉ノ熱烟出ル
ニ適セル所ニ一枚ノ戸アリ斯ノ如キ竈ヨ
リ結晶セル樟脳ノ生セル丁日毎ニ四カツ
テ一五ホンド三分ノ一ナリ
蒸餾ノ手續ヲナセシ間ニ結晶セル樟脳ト
相混シタル至要ノ油生セリ若シ其油ヲ水
素瓦斯ノ水勢ノ所ニ置クカ否ラサレハ硝
酸ヲ以テ其ヲ取扱フ代ニハ直チニ堀リテ
固キ樟脳ヽナル都府若クハ津口ニ於テ巨
多ノ油積累スルヲ要スル時ハ立チトコロ
ニ變シテ油トナル然レヒ今日ニ於テ此品
賣買ノ有ルヲ知ラス此ヲ以テ歐州或ハ米
國ニ於テ利ヲ得ントスルノ努力大ニ相失
セリ
濃氣器ヨリ出シ而ル後チ其油ノ多量ヲ含
ミ且ツ巨多ノ水晶水ヲ含メル樟脳ヲ輸器

ノ中ニ積コミ即チ輸税所ニテ量ヲ計リセ
ント價名ニツキ五ヨリ僅ノ配額ニテ税ヲ納
メシム然ルニ其荷ヲ運轉スル丁ノ為メニ
輸出場ヨリ輸入場ニ至ル迄ニ水ト油ハ桶
ノ底ニ下タリ而シテ漏出シ隨テ其量ノ大
ニ減スルヲ以テ其損失ハ至當ノ理ニテ篙
師ニ歸ス此ノ損失ニ蒸發ヨリ生スル處ノ
損失ヲ加フルトキハ北東ノ時風ノ間其損失
百毎ニ八若クハ十ノ割合ナリ然レトモ夏月
ノ間ハ屢十若クハ十二位ニモ至ル丁有リ
故ニ寒暑ヲ問ハス平均ノ算當ヲ以テスレ
ハ百毎ニ九若クハ十ノ割合也是ヲ以テ此
損失ヲ償ワンカ為メニハ其差別アリテ至
當ト云フヘシ